

# 小学校 特別活動

## 1. 特別活動における学習評価の基本的な考え方

特別活動においては、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者である市町村教育委員会ではなく、「各学校が評価の観点を定める」としています。

児童が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題がもてるようにするため、活動の結果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切です。そのうえで、評価規準に即して設定した具体的な「めざす児童の姿」（おおむね満足できる状況）に照らして、十分満足できる活動の状況がみられた場合に指導要録に○をつけます。

## 2. 小学校特別活動における 10 の内容まとめ

学級活動	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
児童会活動	クラブ活動
学校行事	(1) 儀式的行事、(2) 文化的行事、(3) 健康安全・体育的行事、 (4) 遠足・集団宿泊的行事、(5) 勤労生産・奉仕的行事

児童会祭りや音楽会といった一つひとつに評価規準を設定するものではない。

## 3. 育成をめざす資質・能力と評価規準の設定例

**例** 高学年 学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画

「学級活動の目標」及び学習指導要領解説で例示されている「学級活動 (1) において育成をめざす資質・能力」を参考にする。

### (1) 学級活動(1)において育成をめざす資質・能力の設定

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

### (2) 第 5 学年及び第 6 学年の評価規準の設定

低・中・高学年の発達段階を考慮し作成する。【参考】解説 76 頁、78 頁

太字部分のように各学校で観点をより具体的にしてもよい。

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合っ実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。
文末を「～を理解している、～を身に付けている」とする。	文末を「～している」とする。	粘り強く取り組み、自らの活動の調整を重視することから「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用いる。 （見通しをもつことで、粘り強い取組みの中で学習を調整する姿につながる）

※ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料に内容のまとめごとの評価規準（例）が示されています。

文末を「～しようとしている」とする。

#### 4. 評価体制の確立

学級活動においては、主として学級担任が事前から事後の振り返りまでの児童の活動の様子から、積極的によさや可能性を見取るようにします。

また、クラブ活動や児童会活動、学校行事など学級担任以外の教員が指導する場面も多いです。評価に必要な資料を収集する方法を工夫するとともに、それらが学級担任に届き、活用されるようにします。

#### 5. 評価を総括して指導要録に記録する例

指導要録には、学級活動の場合、学級活動（１）（２）（３）のそれぞれの実践をもとにした評価を補助簿等を活用し、総合的に判断して、学級活動として十分に満足できる活動の状況であると判断できる児童に○を付けることになります。

##### 学級活動（１）補助簿例

		知・技	思・判・表	主体的態度	メモ	総括
	名前	話合いの進め方、まとめ方を理解している。	意見のよさを生かしたり、創意工夫したりして、発言したりしている。	決定的に取組もうとしたり、役割を友達と協働し、意欲的に取組もうとしたりしている。		
1	A	○	○	○○	△/△集会の準備を休み時間に一生懸命行い、全員分のメダルを作っていた。	○
2	B			○		
3	C	○○	○○○	○○	□/□役割に見通しをもって準備をしたり休み時間にクイズを考えたりし、帰りの会でみんなを楽しませ主体的に活動した。	○

※学級活動（２）（３）においては、「現在の生活上の課題」「現在及び将来を見通した生活や学習の課題」という違いがありますが、基本的な学習過程が同じであることを踏まえ、同じ補助簿を用いて、評価結果を蓄積していく例を示しています。

##### 学級活動（２）（３）補助簿例

		知・技	思・判・表	主体的態度	メモ	総括
1	A	○	○	○	△/△自分に合ったためあてを立てている。	○
2	B	○				
3	C		○		□/□インフルエンザの予防方法を理解し手洗いを心がけている。	

例えば、A児のように、学級活動（１）及び（２）（３）のどちらも○となった場合、指導要録に○を付けます。

C児のように、学級活動（２）（３）の補助簿において総括に○を付けていない場合でも、学級活動（１）の活動において、創意を生かして話し合ったり、友だちと協働し、意欲的に取り組んだりしていたことから、指導要録に○を付けることも考えられます。

#### 6. 指導要録における特別活動の記録について

全学年で共通した、各学校で定めた評価の観点を記入する。

児童会活動は第1学年から第6学年までの全児童で組織する児童会による異年齢集団であることから、低学年においても活動の状況を適切に評価する。

クラブ活動を第4学年から実施している学校の例である。学校規模等により下学年から実施する場合は実施しない学年について斜線を引く。

例えば、指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に「自然の教室で、めあてに向かって自分の役割を、責任を持って行うとともに、友だちと協力して野外活動に取り組んでいた。」と記入するなど、○を付けた根拠を示すようにする。

特別活動の記録		学年					
		1	2	3	4	5	6
学級活動	よりよい生活を築くための知識・技能	○		○	○	○	
児童会活動	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○			○	
クラブ活動	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度				○		
学校行事	余白		○	○		○	

(第5学年の記入例)

評価の観点の変更がある場合を想定して、余白をとっておく。